

# 厳冬期の知床岬におけるオジロワシ・オオワシの 気象条件による行動パターンと鳥類リスト

中西将尚<sup>1\*</sup>・森信也<sup>1</sup>・増田泰<sup>2</sup>

1. 099-4356 北海道斜里郡斜里町岩尾別531番地, (財)知床財団 2. 099-4192北海道斜里郡斜里町本町12番地, 斜里町役場環境保全課自然保護係

## Behavioral Patterns of White-tailed Eagle and Steller's Sea Eagle Caused by Weather Condition and Bird List on Cape Shiretoko in Mid-winter

NAKANISHI Masanao<sup>1\*</sup>, MORI Shinya<sup>1</sup> & MASUDA Yasushi<sup>2</sup>

1. Shiretoko Nature Foundation, 531 Iwauetsu, Shari, Hokkaido 099-4356, Japan. \*[nakanishi@shiretoko.or.jp](mailto:nakanishi@shiretoko.or.jp) 2. Nature Conservation Branch, Division of Environmental Conservation, Shari Town Office, 12 Honmachi, Shari, Hokkaido 099-4192, Japan.

### はじめに

厳冬期における知床岬地区のワシの調査に関して、航空調査は行われているが地上調査は過去におこなわれていない。今回は同地区において、越冬あるいは通過するオジロワシ・オオワシの気象条件ごとの行動パターンを記録する目的で観察調査を行った。また、台地外縁部と森林部にて鳥類センサスを行い、厳冬期における同地区の鳥類相の把握も同時に行ったので報告する。

なお、本研究は知床財団と朝日新聞社の共催による「厳冬期知床野生動物調査」の一環として行われた。流氷に覆われて従来到達が困難であった冬期の知床岬における調査を実現できたのは朝日新聞社のヘリコプターによる支援のおかげであった。ここに記して御礼申し上げる。

### 調査方法

2005年2月25–27日の3日間、文吉湾オコツク漁業生産組合番屋を拠点に赤岩湾までの知床岬地区の踏査を行い、踏査中目撃したオオワシ・オジロワシについてカウントし、観察時間、観察地点、観察時の状態（飛行中・樹上・流氷上）、飛行中の場合、飛行パターン（滑空・羽ばたき）、飛行ルート、おおよその飛行高度を、さらに一部について

は観察地点での風向、風速についても記録した。また羽毛から完全な成鳥羽のものを成鳥、それ以外を幼鳥とした。

25日と27日については踏査班とは別に定点観測班を海食台地を広く見渡すことができる岩峰上に配置し、無線を使用して踏査班と連携することにより見落としや重複カウントを防いだ。

鳥類センサス調査は27日に実施した。台地外縁部（踏査距離2.7km）、森林部（同1km）を踏査し、確認した鳥類を記録した（図）。

### 結果と考察

目視数はオジロワシにくらべオオワシが圧倒的に多かった（表1）。観察地点、飛行ルートは図1に示した。流氷が多い文吉湾から知床岬夫婦岩にかけては氷上でワシの姿をよく見かけたが、開水水面が広がり休息や採餌場所となる流氷がない赤岩湾では、飛行してきたワシが沢筋に入りその姿を見失うことがたびたびあった。これらは沢筋の樹木などで休んでいたものと推測された。

また、観察された飛行高度は標高100m以下が多かった（表1）。これは調査区域の海から稜線までの標高差が低いため、海風が陸に当たって起こる上昇気流が弱いことがワシの飛行高度に影響し

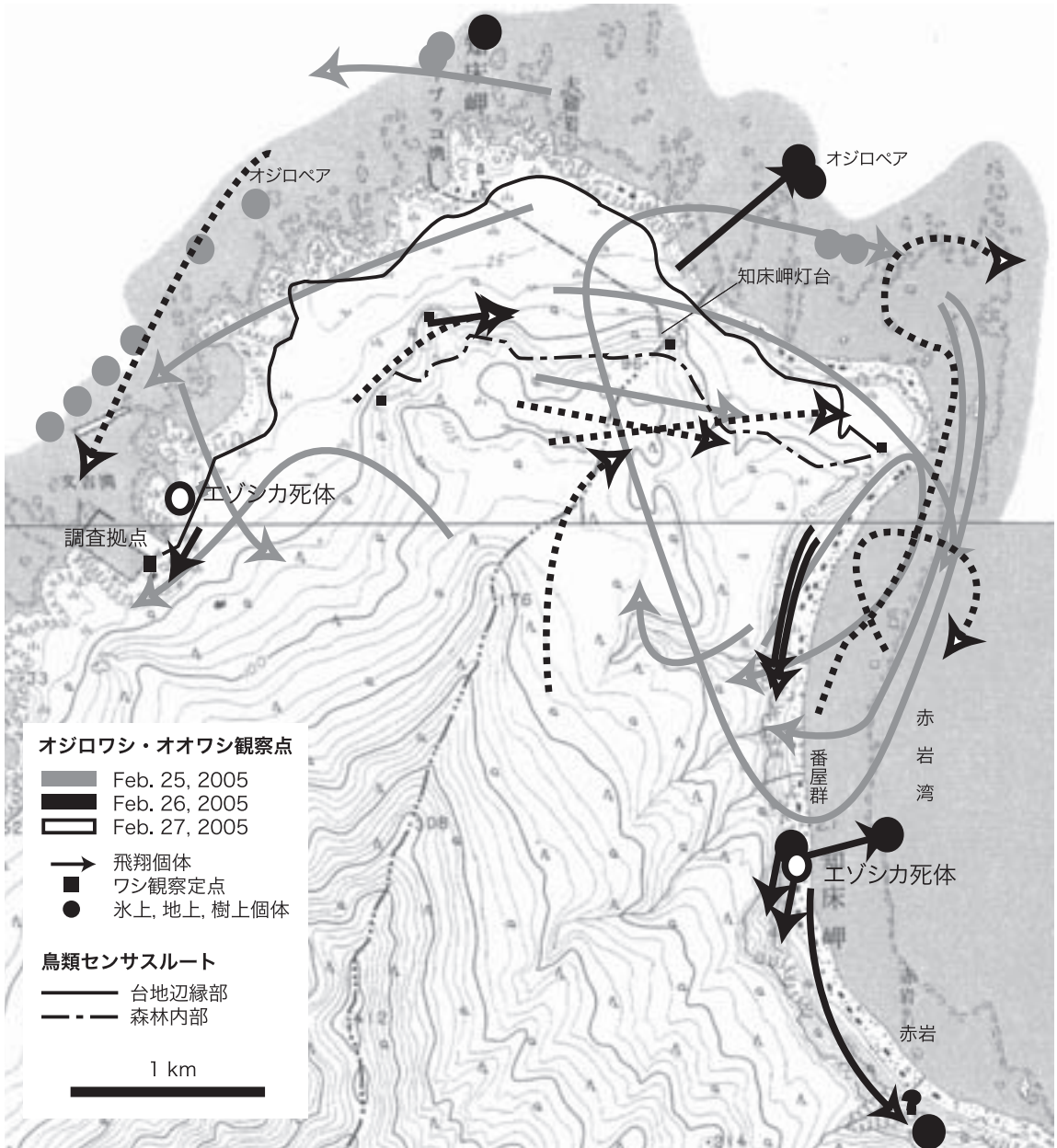


図. オオワシ・オジロワシ観察点と鳥類センサスルート.

ているものと考えられた。

上空を通過する飛翔中のワシをのべ31回確認した（オオワシ成鳥20回，幼鳥7回，オジロワシ成鳥3回，幼鳥1回）。気象条件ごとの飛翔パターンが観察できたのは25回（気象条件データがない5回を除き，飛翔が2パターン確認された1回は羽ばたきと滑空両方にカウント）であった。

飛翔パターンが羽ばたき状態は合計18回確認され，最も多い気象条件は風向S・風速2m/sと風向

SE・風速2m/sであり，合計すると全体の55.6%を占めた（表2）。滑空状態は合計7回確認され，最も多い気象条件は風向NW・風速<1m/sであり全体の57.1%の割合を占めた（表3）。羽ばたき状態が多く確認された理由としては，採餌に必要な移動距離が短い可能性や，期間中の風速が体力消耗にあまり影響しない程度であった可能性がある。

飛翔ルートが確認できたのは合計31回（観察者のディスタートにより，飛び立ったものは除く）

表1. オジロワシ・オオワシの観察記録.

時間	オオワシ			オジロワシ			計	高度	観察場所	
	成鳥	幼鳥	不明	成鳥	幼鳥	不明				
Feb. 25, 2005. 南東の風, 晴れのち曇りのち快晴										
8:55	1						1	飛翔	< 100	啓吉湾沖
8:55			4				4	流氷上		文吉湾-アッポールウシ沖
9:15			1	2			3	流氷上		アッポールウシ-アブラコ湾
9:25	1						1	飛翔	< 100	夫婦岩
9:45			2				2	流氷上		アブラコ湾-夫婦岩沖
10:15	1						1	飛翔	< 100	夫婦岩
10:15	1						1	飛翔	> 100	第1岩峰
11:05	1						1	飛翔	< 100	イソヤ定点
11:11		1					1	飛翔	< 100	イソヤ定点
11:30	1						1	飛翔	< 100	イソヤ定点
11:35				1			1	飛翔	< 100	イソヤ定点
11:50	1						1	飛翔	< 100	イソヤ定点
13:55			1				1	飛翔	< 100	イソヤ定点
14:50	2						2	飛翔	< 100	第1岩峰定点
15:05	1	1					2	飛翔	< 100	岬灯台定点
Feb. 26, 2005. 北北西の風, 小雪, 昼過ぎ一時強く										
8:10	1						1	飛翔	< 100	文吉湾台地上
9:30	1						1	流氷上		アブラコ湾-夫婦岩沖
9:45	1			2			3	流氷上		知床岬灯台沖
10:20	2	4					6	海岸		赤岩湾シカ死体
11:30		2					2	海岸		赤岩湾シカ死体
12:15	1						1	飛翔	< 100	赤岩湾シカ死体上空
12:50		1					1	飛翔	< 100	赤岩湾シカ死体上空
13:00	2	1					3	樹上		赤岩川右岸
13:40		1					1	飛翔	< 100	赤岩湾
13:50	1						1	飛翔	< 50	赤岩湾
13:55	1	1					2	樹上→飛翔	< 50	赤岩湾
15:10	1	1					2	飛翔	< 100	第1岩峰
Feb. 27, 2005. イソヤ: 南の風; 第2岩峰: 北西から北東の風, 晴れ										
11:40	2						2	飛翔	?	イソヤ
11:50		1					1	飛翔	?	イソヤ定点
11:50				1			1	飛翔	?	イソヤ定点
12:37	1						1	飛翔	?	イソヤ定点
13:50		1					1	飛翔	?	イソヤ定点
14:30	1						1	飛翔	< 200	稜線標高176m地点
14:50				2			2	飛翔	?	第2岩峰
15:46	1						1	飛翔	?	第2岩峰
計35	26	15	8	7	1	0	57			

で、多い順に赤岩湾周辺を旋回が32.3% (10回)、斜里側での半島先端部から基部方向へ移動が22.6% (7回)、羅臼側での半島先端部から基部へ移動が12.9% (4回)、斜里から羅臼方向への稜線越えが12.9% (4回)であった(表4)。赤岩湾周辺での旋回が多い理由としては、付近の沢にエゾシカの死体があったことが影響したものと推測された。

鳥類センサス調査は2月27日に実施し、台地外縁ルートでは4種、森林ルートでは9種の計13種を確認した。調査日以外にホオジロガモとヒメウが確認されており、それらを含むと合計15種の鳥類が確認された(表5)。

中川(1981)は過去に春期(5月下旬)、初夏(7月上旬)に同地区において同様の手法でセンサ

表2. 羽ばたき状態で通過したワシ観察回数の割合(データ数)と風向・風速との関係。n = 18.

風向	風速 (m/s)		
	< 1	1.5	2
NE	16.7(3)		
E	11.1(2)	11.1(2)	
SE			27.8(5)
S			27.8(5)
NW	5.6(1)		

表4. 移動ルート別のワシ観察回数の割合(データ数)。n = 31.

移動ルート	斜里	羅臼	稜線/中間部地点	合計
赤岩湾旋回		32.3(10)		32.3(10)
先端→基部	22.6(7)	12.9(4)		35.5(11)
海→山	3.2(1)			3.2(1)
基部→先端	3.2(1)			3.2(1)
山→海		6.5(2)		6.5(2)
斜里→羅臼			12.9(4)	12.9(4)
羅臼→斜里			6.5(2)	6.5(2)
合計	29.0(9)	51.6(16)	19.4(6)	100.0(31)

スを実施し71種を確認しているが、今回の厳冬期調査で新たにオオワシ、ハギマシコ、ワタリガラスの3種が確認された。今回の鳥類センサス調査は1日のみの実施のため、厳冬期における知床岬地区の鳥類相を明らかにするまでにはいたっていない。今後機会があれば同様の調査を繰り返し実施する必要があると言える。

引用文献

中川元. 1981. 知床半島の鳥類調査報告. 北海道生活環境部自然保護課(編), 知床半島自然生態系総合調査報告書(動物篇). pp.43-79. 北海道生活環境部自然保護課, 札幌.

表3. 滑空状態で通過したワシ観察回数の割合(データ数)と風向・風速との関係。n = 7.

風向	風速 (m/s)		
	< 1	1.5	2
E		28.6(2)	
SE			14.3(1)
NW	57.1(4)		

表5. 鳥類リスト.

種	観察	鳴声	ルート
1 ヒメウ*			
2 シノリガモ	28		台地外縁
3 ホオジロガモ*			
4 オジロワシ	3		台地外縁
5 オオワシ	5		台地外縁
6 ノスリ	2		森林
7 オオセグロカモメ	56		台地外縁
8 コゲラ	1		森林
9 ハシブトガラ	2	2	森林
10 シジュウカラ		5	森林
11 シロハラゴジュウカラ	2	2	森林
12 ハギマシコ	3		台地外縁
13 ミヤマカケス	1		森林
14 ハシブトガラス	2	3	森林
15 ワタリガラス	2		森林

\*: センサス調査日に確認されなかった種.